

私達、同窓会をやりました

タテ型社会と云える日本は会社との結びつきばかりが強く同窓会と云う故郷淡路島を同じとするヨコの連がり最近とみに減ってきたように思います。この機会にヨコの連がりである同窓会が我々人間の本質的な関係だと思えます。本号では六回生と十三回生の報告を掲載いたします。各回生の皆様もミニクラス会、同窓会を開いた時はぜひ、ご一報下さい

十三期生の 同窓会を終えて

高田 千代子

昨年度の阪神支部総会が九月八日(日)に神戸ポートアイランドのホテルゴッフルで開かれ、大成功を収めた。その折角の余興のフランドの地もたまたま、ほとんど復興され、日曜日もあつて市民広場は大勢の人々で賑わっていた。高校時代クラブ活動もなかった私は、先輩後輩とは全く無縁で、総会には出席しませんでした。思いを込めて、寂しい思いをするだけだろうと、その時までは出席しませんでした。ところが、同窓会が三十三期生が当番になっていると、当時の生徒会委員の小久保さん、田中さん等を中心に何人か集り、クラス毎に手分けして声かけはしてありました。同窓会には四十名、全体で一八四名と近年ない多数の参加者となりました。知らない人ばかりだろという心配をよそに、同期生は勿論「ええっ、誰々さんのお兄さん、ひょっとして誰それの妹さん?」「へえ何阿さ

かり振り返っていたらあかぬえ。と申します。勿論私も「昔はよかった、あの頃に戻りたい」と言っているだけではないのです。今はやりの失業率とかのきつかけに悩むこともありますが、長いこと会わなかったけど皆んなそれぞれに頑張っているやな。私ももううんとは頑張らないと、よい刺激を受けて、明日へのエネルギーが湧いて来るような気がします。又、ひょっとして息子の縁談が飛び出すかもしれないし、長年の友人は何より

第六回卒生 同窓会開催!!

坂東 洋治

れ、ご招待の先生七名(荒木了介先生、岩崎敦美先生、宇城隆生先生、大西義哉先生、田居慶生先生、藤田岩夫先生、和田史都子先生)と九十四名の参加者がありました。遠くはアメリカから帰国して少し体格のよくなった笠山さんの姿もありました。昭和三十三年三月津名高校の港を出発して以来、人生の大波小波を乗り越えては五十路半、皆それぞれに顔のしわや白髪一本一本に自信を蓄えて、いとおじさん、いとおばさんになっていきました。メダカの学校よりく先生も生徒も別がつかなくなつてしましました。全ての先生方からおのこもったお言葉も頂き昔の授業とどらうして聞いておりました。三十五年の空白も何のそのつかり高校時代にタイムスリップして、美味いお料理を頂くのも忘れ、次々と話はあることもなくあつた。二次会にはカラオケで盛り上がり、名簿がきちんとした形で残つておらず重宝したり脱けていたりご迷惑をかけてしまいました。さて、同窓会の当日は天候にも恵ま

の財産と思えます。このたびは私達の多くの勿論私も「昔はよかった、あの頃に戻りたい」と言っているだけではないのです。今はやりの失業率とかのきつかけに悩むこともありますが、長いこと会わなかったけど皆んなそれぞれに頑張っているやな。私ももううんとは頑張らないと、よい刺激を受けて、明日へのエネルギーが湧いて来るような気がします。又、ひょっとして息子の縁談が飛び出すかもしれないし、長年の友人は何より

私と淡路島 そして津名高校

菅 数子
(高二十回生)

同窓の集いが、続けられる(2) 民謡佐渡歌に、深く関わりつづけた経緯。この縁で片岡の高校で世界的レベルの五輪大会選手の体操演技を見学できた。石上修氏の授業に導かれて、今尚、民謡を指導している。懐旧の話。(3) 定年退職後からが、自分の本音が表れる。在職中は、仕事で精一杯を考えた。それだけでよい。余世を享楽に、生きる方法を考える。それだけでよい。身近で肌で感ずる話、三人三様の、異議を引く話を拝聴した。同窓会ならでは、味えぬもの。話の余韻が消えぬ。乾杯に移る。横浜から、遠来の生利夫氏の発声により、力強く乾杯、中華料理の円卓を、男女交互に囲み、祝宴に入る。舌鼓を打ちながら、料理の珍味を賞味し、美味な料理を進める等やかな雰囲気。の会食が終り、お腹が満たされ、微酔気分も手伝い、打解け、高校生活の懐旧談をはじめ、話の山、笑いの渦が起り、楽しく、賑やかに

ヤは、無駄ではなかったと自負心旺盛の六十青年達。初参加者からは、再会の喜びと、雰囲気の良い満足感を味わい、次回の期待の声をあげ、異口同音に聞きた。旧交を温めていた祝宴も、予定時間が迫り、名残を惜みながら、閉会となり、浜野市氏から、本会開催の謝辞、次の機会の期待、参加の輪の廣がり望む。この挨拶、校歌合唱の後、選考、退職慰労同窓会の記念撮影を終えて、或る者は、家路へ、他の者は「二次会へ」と、会場を後にした。

高校十三回生
サッカー部OB有志一同

J・T・トラベランド
池田店
支店長 五熊 詔一
(高十三回生)

〒503 池田市菅原町三二一〇三
ステイションビル二階
TEL 077-551-1632
FAX 077-551-3436

コメルシオ・コクボ
真珠輸出・卸
小久保 澄夫
(高十三回生)

〒670 神戸市灘区鶴甲一十一
〇七七八八四二一〇四二
四一四〇二

大阪府中央区高麗橋二丁目四番
井護士 藤木 啓彰
(高二十七回生)

電話 06-6533-1100
FAX 06-6533-1100

東興海運株式会社
常務取締役
石上 修
(高六回生)

〒658 神戸市東灘区住吉台四一七四〇二
〇七七八八四二一〇八八四番

総合食品問屋 太定
江本(柏木)元子
(高六回生)

〒66 三原郡南淡町福良甲一三二八
電話 079-915-1100
FAX 079-915-1100

堀田勝彦

飛びついてくるかと思ひ込んでおりました。しかし女房の返事は完全に私を裏切るものでした。 たった一言、書きたいわね。」

それでおしまいです。後で知ったのですが、アイディアの面白さから自分にはこせないというテーマで感じ表現するのは無難だと感じたらそれでいいので、でもその時は、捨てるのは気がもたないく、いつか気は変わることを期待して、忘れないようにメモをしてこうとう思いました。ところが、メモ始めると新しいアイデアも次から次へと思ひつき、意外と自分で想像するような気がして、そのまま続けていになりました。そして出て来たのが初めて作品「木れ日の午後」です。

二十代の終わりと三十代の初めにかけて、青年でもない壮年にも不安定でない年代の不安定さを物語にしたのです。初期

日本の南の海に軍艦の輸送機が墜落し、深淵に沈んでしましました。そこがその積荷が多量放射線物質で、大がかりな被害を受けることになるという想定です。その処理に当たった操縦士・青年と戦術派の科学者や世代を越え友情を社会で理解不尽きの時の葛藤として描いたものです。反重力の強いものでは、千二百メートルの長編にしけれどSFでやるので書いていけるうちに期を逸してしまいました。その他、短いものが幾つありましたが、その後で、それからシンデレラに、取り組みました。これが孤島に、私は夜間定時制だったため、子育ての半分が私が分担したこととなつた専門的勉強が出来なかったということになるのですけれど、そのことの事情は本のあとがきにも少しだけ述べられました。けれどもそれ

事柄		3学期制	2学期制
学区 区分 の な か	1学期 4月～7月 2学期 9月～12月 3学期 1月～3月	前期 4月～9月 後期 10月～3月	
年 間 評 価 の は 定 期 考 査 と な る の か 回 数 や	1学期 5月下旬に中間考査、7月 月上旬に期末考査 2学期 10月下旬に中間考査、12月上 旬に期末考査 3学期 3月上旬(3年は1月下旬)に 学年末考査 以上年間計5回	前期 6月中旬に中間考査、 9月中旬に期末考査 後期 12月上旬に中間考査、 3月上旬(3年は1月下 旬)に学年末考査 以上年間計4回、 それ以外に一部の科目で学期 に一度確認テストを行う他、 これまでもより小テストやレポ ート、授業に取り組み態度が 重視されます。	
家 成 は る か 庭 に へ 報 告 の 告 白	各学期の終わりに通知簿によ って報告	各学期の終わりに通知簿によ って報告 3年生のみ7月下旬 に仮評価を報告	
学 校 行 事 の な か	学校祭は文化祭自由祭体育祭 をまとめて9月下旬に実施	時期の見直しが必要です。今 年は学年高祭を2分割し、文 化祭・自由祭を5月中旬実施 体育祭は従来通り9月下旬に 行います。	
各 制 度 の メ リ ッ ト ・ デ メ リ ッ ト	春夏秋冬のある日本の風土に 通した制度です。学期の間に 長期休業が入るため、学期毎 のメリハリができて、短期的な 目標が立てやすいのが長所で す。その反面区切りが短いた め時間的な効率が悪いのが短 所です。学習するものにとっ ては、区切りが短いため考査 とは試験勉強の負担が比較 的に軽く、継続的な学習の習 慣ができていない生徒でも試 験前に集中的に学習すること で一定の成績を上げることが 可能です。	区切りが長く考査の回数も減 るため授業時間にとりがで ます。年間学習学習計画によ り一層継続性を持たせること ができ、これまで以上に効 率的な学習ができます。また前 期・後期という学期毎に単位 認定が可能になるので、より 柔軟で多様な教育課程の編成 が可能になります。学習する ものにとっては、区切りが長 くなるため、継続的な学習の 習慣ができていない生徒が試 験前の集中的な勉強で対処す るには困難になります。日頃 の計画的かつ継続的な学習が 望めます。	

丸野ちづる

「高一生」

社会福祉の仕事に携わって今年で二十五目になります。こうして文字にする二十五というのは大変長い時間だとのだと、改めて思います。

生活保護法による障害者の施設で働き、様々な福祉問題にふれ、施しの利用者とおつきあいをしてきました。そこからいろいろ物も多くなり、人生の半ばを過ぎる年齢になつてきき人を相手にする仕事の楽しさや、若い頃とは違う思いであじわつています。

それにしても、この二十一年間に社会福祉は大きく変わつてゐます。私が仕事をはじめた昭和四十八年は「福祉元年」といわれた間もない時で、福祉施策が問はれた時期です。まもなく「見直し」されたつづきで、様々な面でもなつてはきました。しかし、主要先国の中ではまだ遅れていて、生活の支障に対して安心して利用できるの制度施策があることが、社会福祉・社会保障の役割と思つて、高年齢者を迎へて、改めてその遅れが顕著は国や自治体の財政難で福祉予算でリストラ対象です。私自身も、倒産や失業、社会保険や金庫の負担増でみないの生が苦しい時代からこそ、これまでつくりあげてきた度を守り発展させて、安心して老いることができる会社にしたいと思つてます。そこでこの仕事を続けよう。

（社会福祉士養成所、高福祉課・施設員）

阪神支部では開通した明石大橋を通して母校を訪問する計画をたてました。当日は文化祭が行われる予定です。途中、淡路島公園(岩屋)と北淡町地震記念館等を見学します。

皆様お誘いあわせの上ふるってご参加下さい。

ソフト部OB有志

「三三七〇八十万余円、すなわち、家内は世界のご協力を得られました。ありがとうございました。」と奥様の

尾崎田鶴子
(高六回生)

司令する脳と、外敵の侵入から体を守る、免疫システムは、六十才でした。生物は、子供を残す為に生

今は、ただ一筋に、周子や孫達に、良い思い出

稿、広告に御協力いただきます。

郡 益彦
(高六回生)